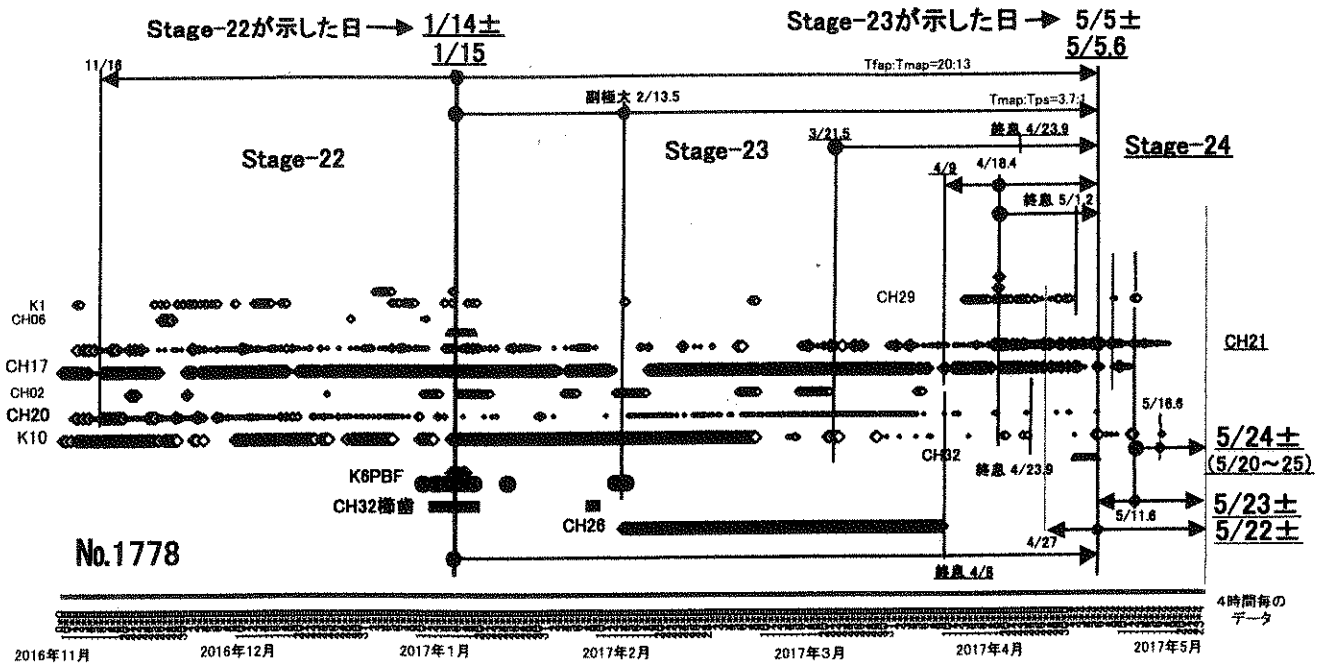
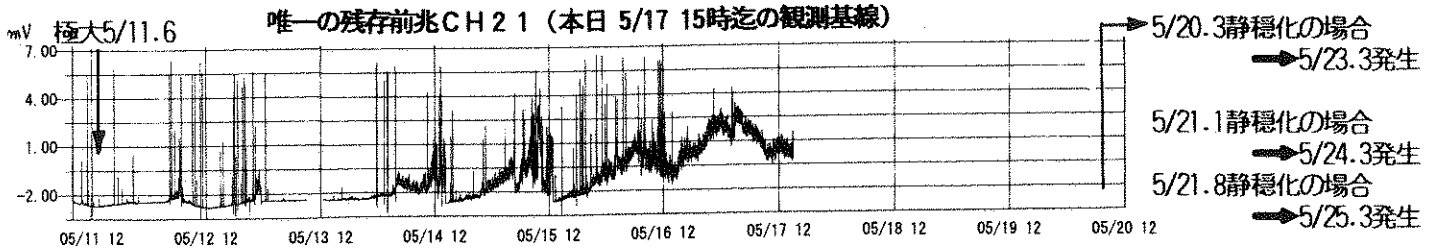


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆現況報告 継続前兆=CH21のみ 日々前兆静穏化傾向
5/20± CH21前兆が静穏化した場合→5/23±対応地震発生の可能性



5/5.6 に極大が観測され、No.1778長期継続前兆は第24行へ。
2008年07月初旬から前兆が始め、最大時期では30以上の観測装置に顕著な前兆が継続出現していましたが、5/5.6の極大以降基本的にハヶ岳のCH21の特異前兆のみとなっています。
5/16.6に高知観測点のK10に弱い特異が短時間出現しましたが、その後は無く現在もCH21のみ。8年10ヶ月継続した前群変化の中では初めて、K10は5/5.6極大時に顕著に出現。5/5.6主極大、5/16.6を副極大としますと、 $T_{map}:T_{ps}=3.7:1$ 平均では5/24±、誤差内の $T_{map}:T_{ps}=3:1\sim4:1$ では5/20~25が計算できます。
CH21基線は5/5の極大頃の完全糸状態から、幅を持った基線に変化し、電圧値も徐々に正常値に向かって上昇中です。上CH21基線参照下さい。電圧値5±2mVで一定の大きさの直線基線を記録する様なれば正常です。他の前兆関係からは5/23±(5/23~25)の可能性が示唆されます。5/20昼前にCH21前兆が静穏化し、正常基線を記録する様になった場合は、5/23対応地震発生の可能性が示唆されます。観測を続け、続報させて頂きます。

- ◆推定領域：下図 点線領域=大枠 大線領域内=可能性高い
※ある程度火山に近い領域の可能性有
(※影響局認識の場合は福島付近となるが下図領域が考え易い)
- ◆推定規模：M7.8±0.5 (震源浅い陸域日本列島地殻地震)
- ◆推定時期：実際の前兆終息を観測後計算予定
可能性：5月20日±前兆終息の場合=5月23 (5/23~25)
◇推定発生時刻：午前9時±1時間 (又は午後6時±3時間)

